

ようこそ！診察室へ

「アトピー性皮膚炎」について

●皮膚科 ●皮膚科科長 岸本和裕 きしもとかずひろ

難病になってしまった「アトピー性皮膚炎」

ステロイド拒否、特殊治療、民間療法、アトピービジネス、ドクターショッピング、真否を問わない情報の氾濫など、アトピーを取り巻く世の中の混乱を少しでも鎮めるために、日本皮膚科学会が1994年より本格的に動き始めました。具体的には、診断基準、重症度分類、治療ガイドライン、診療ガイドラインを次々と策定して、その普及に努めました。全国的には、ある程度効果があったものと評価されております。ですが、ここ10年程の間に当科へ来院される「難治」のアトピー患者さんが

減ったかと言いますと、一向に減る兆しすらありません。患者さんは、3〜5件の病院で治療を受けたのに良くならないという方が多いです。皮膚科・アレルギー科標榜医や皮膚科専門医を受診したけど良くならないという方も多く、県内・外の大学病院や有名病院の偉い先生、アレルギー専門医に診てもらっても良くならないという方も珍しくないのが現状です。

「難治」のアトピー患者さんが減らないのはどうして？

以前より不思議でなかったことがあります。治療を行う病院や医師によって、

アトピー患者さんの経過にどうしてここまで大きな差が生じているのか？ということですね。なぜなら、ゴッドハンドを持つスーパードクターによる特殊な外科手術などとは違い、特定の病院や医師しか治せないアトピーなどあるはずがないからです。手に入れられる情報や知識、施行できる検査、扱える治療薬は、どの病院でも、どの医師でも、全国共通、同じ条件なのです。

あちこちの病院を転々としても良くならないと言って訪れるアトピー患者さんを診療していくうちに、その答えが少しずつ見えてきました。いくつかの理由がありました。①ガイドラインが普及したことは喜ばしいので

すが、診療がマニュアル化され過ぎることにより弊害が生じています。特に、大学や病院などの勉強熱心な医師にその傾向が強く、ガイドラインに載っている通りに診療しないと気が済まないというのは、大変危険です。何かトラブルがあった時の自己防衛のために、改善しなくともガイドライン通りに診療しておくのを良しとする傾向もあります。一人ひとり病態や生活環境・社会的背景などの異なる患者さんを相手にしているのに、ガイドライン(マニュアル)に沿って、正論を押し付けるだけでは到底うまく行きません。また、マニュアル医師は応用が効きません。ガイドラインは単なる説明書と考えるべきです。患者さんごとに工夫し、知恵を搾るということが何よりも大切になってきます。②専門的知識が患者さんに正しく伝わっていないことも多いです。つまり、一方通行の説明で医師が自己満足、自己防衛のために形式的に説明をこなしているだけになっていることがあります。うまく伝わらないと、理解できない患者さんが悪いという発想。質問にも応じない。質問できないような雰囲気を作る。

医師は、高度な専門職ですから、勉強脳はかなり発達しているはずです。しかしながら、自分が吸収した知識を患者さんに説明する力、つまり、「伝える力」のトレーニングは受けていないので、「伝える力」が不足していると診療結果に大きな差が出てしまいます。③知識と技術を身につけるだけでは改善しないことがあるという現実を受け入れられない医師。自分が全力を尽くしても良くならないのだから、「アトピーは難病」「ひどいアトピーなんだからしょうがない」「現代の医学ではこれが限界」と、医師自身があきらめてしまふ。これは一番難しい課題だと思えます。つまり、「何としても治したい。逃げない。あきらめない。」という「熱意」「使命感」「志」「思いやり」といった「心の問題」です。

「難治」のアトピー患者さんが減らない理由は、われわれ皮膚科医自身にあったのだろうと責任を感じています。さらに、もともと福島県全域の皮膚科医療は崩壊の危機に瀕しておりましたが、震災後、医大を中心に完全に崩壊してしまいました。皮膚科医の質・量ともに手の施しようがない状態です。こんな状況でアトピー患者さんの診療はどうなってしまうのでしょうか？

病院や医師に依存しないアトピー診療の方法論の確立と普及に向けて

目の前に現れるアトピー患者さんたちの診療に真摯に向き合うことで、少しでも現状を打開したいと考える日々が何年も続いています。しかしながら、福島県全体が非常事態にあり、頼るべき皮膚科医療も崩壊してしまい、しかもこれが長期的に続く見込みです。この大問題を解決する方法として、アトピー患者さんに読んで学び取ってもらうだけで治療経過が良くなるようなものが作れないかと思ひ立ち、ある本を執筆いたしました。これは、どこに住んでいても、どの病院に通院していても、身近に信頼できる皮膚科医がいなくとも、どの先生の診察を受けても、一切関係なく、病院や医師に依存しないで、患者さんが自信を持って、自立して治療に取り組めるようになるのが目的です。

これで最後の…『アトピー卒業ブック』の紹介

今まで、どんなアトピー本が出版されても、どんなアトピーの名医と言われる人が現れても、日本皮膚科学会が多くのガイドラインを策定しても、私の前に現れる「難治」のアトピー患者さんは一向に減りませんでした。少なくとも今までのモノでは絶対にダメだということを踏まえて、「患者さんのために本当に必要なことは何なのか？」ということ真剣に考え執筆致しました。①アレルギーに関するあらゆる内容を盛り込むこと。つまり、インターネットなどで氾濫する多すぎる情報に翻弄されないために、正しい知識を吸収して頂き不安を一掃する。②理解に苦しむような難しい内容をすくイメージしやすい言葉で伝えること。患者さんがスムーズに理解できるレベルの説明というのは、小学生の子どもが読んでも分かるレベルの説明だと考えています。そこまでがんばりました。③患者さんがアトピーときちんと向き合えるように、精神的なサポートをすること。知識や技術の吸収だけに留まらず、一番大切な

「心」について随所に盛り込みました。

『アトピー卒業ブック』は、こんな方に読んで頂ければと思います。

- アトピーと言われた
- アトピーで悩んでいる
- アトピーのことをちゃんと知りたい
- 病院に通院しているのに良くならない
- 先生の言う通りにしているのに良くならない
- 良くならないのにいつも同じ診察と薬
- 先生の説明が良く分からなかった
- 何を信用していいのかわからない
- もう不安で不安で仕方がない

きっと、何らかのお役に立てるはずです。乳幼児のお子さんのアトピーでお悩みのお父さん・お母さん、成人アトピーの方、そして、小学生以上であれば是非親子でお読みください。子どもに自覚が生まれると経過が驚くほど違ってきます。

また、「アレルギー全般について学びたい」という意欲のある医療関係者の方々や学生さんにも是非一読をお勧めいたします。

変詳しくしかも実用的な内容となっております。小学生にも理解できるように工夫しておりますので、普段「本を読むことがアレルギー」の方にも安心してお気軽にお読み頂けると思います。

◎アトピー（その正体、重症度の見分け方、遺伝子）◎アレルギー（反応）、アレルギー（除去）◎皮膚の構造、バリア機能◎ドライスキン、敏感肌◎苔癬化、結節性痒疹◎アレルギー検査・読み方◎好酸球、TARC、Ige、RAST、LDH◎Itchy-scratch cycle（イッチ・スクラッチ・サイクル）◎抗体、免疫、耐性（トレランス）◎ストレス◎口腔アレルギー症候群◎花粉・食物アレルギー症候群◎ラテックス・フルーツ症候群◎ステロイド（種類、強さ、体の部位別吸収率）◎抗生剤入リステロイド◎非ステロイド◎保湿剤、亜鉛華軟膏、消毒◎軟膏・クリーム・ローション◎外用薬の混合◎免疫抑制剤、トラフ値、C1値◎正しい外用・処置の方法◎薬の使い分け、外用剤を使いこなすポイント◎皮膚が茶色くなる（色素沈着をおこす）

理由・治し方◎抗ヒスタミン・アレルギー薬、脳内H1受容体占拠率◎ロイコトリエン拮抗薬◎Th2サイトカイン阻害薬◎メディエーター遊離抑制薬◎ジエネリック医薬品◎スキンケア、汗のケア◎石けん、シャンプー、頭・体の洗い方、入浴剤◎海水浴、プール、塩素◎紫外線、UVA、UVB、日焼け止め、SPF、PA、紫外線療法◎細菌感染（とびひ）、黄色ブドウ球菌、MRSA◎ウイルス感染（水いぼ、カポジ水痘様発疹症）、ポックスウイルス、ヘルペスウイルス◎名医、良い先生、教育入院◎民間療法、アトピービジネス、暗示療法、脱ステロイド、ステロイド拒否◎保険診療、医学、EBM（evidence based medicine）、医療◎マネジメント、自己管理、イシメ



— 書籍のご案内 —

- 書籍：これで最後の…『アトピー卒業ブック』
- 著者：(財)竹田綜合病院皮膚科 岸本和裕
- 定価：1,575円(1,500円+消費税)
- 出版社：株式会社 健康ジャーナル社
〒112-0004 東京都文京区後楽2-3-25 金子ビル2F
TEL 03-3813-5771 / FAX 03-3813-5812
URL <http://www.kenko-journal.com/>
- コードNo.：ISBN978-4-907838-57-7 C0047
- 購入方法：山鹿クリニック1F総合受付 / 健康ジャーナル社のホームページ / アマゾン (Amazon) などのインターネット通販 / 最寄りの書店 (取り寄せ可能)

語録集

本書は、アトピーに関するあらゆる知識を得るだけではなく、一人ひとりがどのようにアトピーと向き合い、どうやって治療の方向性を見つけていくかを具体的にサポートする内容になっております。

その根治には、より幅広い視点が必要なることをご理解頂くために、多くの解説が盛り込まれております。そしてそれらは、大

す。医療人にとって、「アトピー・アレルギー」は避けては通れない分野ですが、いざ説明を求められると、的確にしかも、わかりやすく解答出来る方がほとんどいない「泣き所」でもあります。本書に触れることで、今まで医学書を読んでもしっくりこなかった難解な話がスーッと理解できると思いますし、なかなか本にはのっていない臨床で役立ついろいろな豆知識を得ることもできます。自分の身内、患者さんや知り合いから相談を受けた場合などにも迷うことなく正しい知識・情報、向き合い方などを、自信をもって伝えることができるようになりますので、お役立て下さい。